

週末ビギナークラブ活動報告書

第4回「遊びの屋台村と修了式」 2021年1月17日(日)

遊びの屋台村で楽しもう！

当初予定していた「野外炊事」が出来なくなりました。「野外炊事」と同じくらい「楽しく、子どもたちにとって心に残る活動ができないか」と考えた企画が「遊びの屋台村」です。週末ビギナークラブオリジナル通貨「ビギ」を使い、好きな「遊びの屋台」を楽しむだけ楽しむ、という企画です。「ビギ」を得るためには、①「火おこし選手権」の順位による最初の獲得賞金。そこからは②遊びの屋台村で賞金を得るか、③自分で遊びを企画して「遊び会社社長」となり、起業家として「ビギ」を増やしていくか、という方法がありました。



「火おこし選手権」は、同じ高さに設置された「麻ひも」を、焚き火でおこした火で焼き切る速さを競います。材料はマッチ6本、新聞紙1枚、森にある枯れ枝のみ。前回より制限のある中で、これまでの経験値を総動員してチャレンジです。地道に、着実に火おこしをする班、かさ上げして「麻ひも」と火の距離間を詰めていく班。面白い発想だな、と感心したスタッフ。1位と3位の差は10分ほど。頑張りました。



それぞれが得た「ビギ」を持って、好きなように屋台巡りがスタートです。個人でやるもよし。チームでチャレンジし、高額「ビギ」をみんなでゲットするもよし。子どもたちの自由度を高め、且つ、チームでやる時は力を合わせて取り組めるような仕掛けをしました。しかし、スタッフが仕掛けた「遊び屋台」以上に、子どもたちが自ら作り、仲間を増やして遊ぶ「遊び会社」の内容が素晴らしかったです。「鬼ごっこ」、「かくれんぼ」といった定番から、「輪ゴム鉄砲」や「新聞フリスビー」を応用した遊び、中には癒し系の「マッサージ」や「出張肩もみ」というものも起業されていました。みんな遊びを作り出す天才たち。素敵な時間でした。



最後は、全4回のふりかえりタイム。印象深かった出来事などをカードに書きました。そして修了式。すべてがあつという間に過ぎさつた活動でした。

様々な制約がある中ではありましたが、それに屈することなく、子どもたちは駆け抜けてくれました。「何事も工夫次第で楽しめる。そこに仲間がいれば、きっとクリアできる」。そうした希望が伝われば幸いです。

短い間でしたが、ありがとうございました。またお会いできることを心待ちにしています。